

“ふじのくに”^{しみん}士民協働 事業レビュー結果(予算事業)

番号	事業 2	事業名	学校支援地域本部等推進事業費
----	------	-----	----------------

1 基本情報

実施日／班名	9月16日(土) 第1班		
担当部局名	教育委員会社会教育課	事業費	40,000 千円

2 レビューの結果 施策に対する効果の程度

結果	一定の効果がある	判定区分	県民評価者の内訳	
			大きな効果がある	10
			一定の効果がある	44
			あまり効果がない	6

3 班としての主な意見

- ・ 県の役割は限定的で間接的に関われば良いという意見から、全市町で実施するよう県がもっとリーダーシップを発揮すべきとの意見まで、県の関わりについて幅広い意見が出たが、実施していない市町の状況（他の取組で代替している可能性など）の把握や、地域における教育に関する分析など、県の果たすべき役割を再度検討する必要があるのではないかと。
- ・ 地域コーディネーターが担う役割が非常に大きいことを踏まえ、有償化を含めたコーディネーターの育成・支援のあり方について検討すべき。

4 県民評価者の意見（レビューシートから転記、下線があるのは口頭で発表された意見）

(1)見直し・改善策

ア 目的・指標

- ・ 県はよりビジョンを明確にすべきであると思った。
- ・ 目的が、誰のための施策なのか分からない。（地域の教育力とは何なのか？）やることはいいことだと思う。だがこの結果が何を意味しているのかがよく分からない。学校の箱でやっている以上、地域とのつながりが子供に意味があるのか、分からない。
- ・ 目的と方法・手段をはき間違えていないか疑問に思う。
- ・ 県としての方向性が少し分かりづらく、より良い事業として進めていくのであれば、居場所作りに重点を置くのか、地域とのつながりの強化なのか、目標を具体的にしていける方がよいのではと思いました。
- ・ 教育度合を数値であらわすには無理がある。
- ・ 教育に成果が上がった、下がったということではないと思う。

- ・効果の測定は困難だと思う。このような活動を県が推進していることを示すこと自体が大切。
- ・数値に表すのが難しい事業だと思う。
- ・具体的な目標を掲げてほしい。
- ・県としての目標（ゴール）が明確になっていないように思う。
- ・「教育力の向上」が目的といっているが、その定義が曖昧になっていると感じました。どういった部分を向上させるのかを明確にした方がより具体的な支援も県からできるのではないかと感じました。
- ・成果の出し方、もっとシビアに知りたい。
- ・効果がもう少し数値として目で見えるようにしてほしい。「挨拶が増えた」「参加して良かったという声を聞いた」というのは、もちろん良いことであるが、抽象的な感じもする。（例えば、教育力の効果を見るのであれば、学力テストの結果。地域のつながり、活性化の効果を見たいのであれば、地域商店街の売り上げの結果や犯罪数の推移など。）
- ・御前崎の例で、「郷土を愛する子どもを育む」といったような話がありましたが、その本当の効果というのは、H20 から始めたその活動を受けた子どもたちが大人になったときに、御前崎に居続けて、地元で就職してくれる、または、老後、御前崎に戻ってきてその地で生涯を終えてくれる、その人数を、活動を始めた前と後で比較してみて、はじめてわかるものであるように感じる。
- ・学校・地域の連携には、「子供の目指す姿、地域の目指す姿、学校の目指す姿」をもっとビジョン（青写真）化して、市町に示すことが必要だと思う。そして市町の特色を生かし、レベルアップ、レベル均一化していくためにフォローアップすることが必要と思う。
- ・放課後子ども教室：必要な施策だと思うが、もう少し県が目的を明確にした上で、市町を指導した方が良いと感じる。

イ 対象・範囲

- ・予算のばらつきも子供の数が多い所は多く等の振り分けは分かるけど、市によってのばらつき（コーディネーターの数など）はない方が良い。
- ・極端な差は子供達の成長にもばらつきが出てしまうのではないかと感じてしまう。
- ・放課後子ども教室を毎日やっているようなところがある一方で、月に1回やるかやらないかというところがあり、地域によって差が大きく開いてしまっているのは、もう少し考えて改善した方が良いのではないかと考えた。
- ・小学校では、ほとんどのところで放課後子ども教育をやっているのに、中学校になるとやっている数が大きく減る、ゼロになってしまうのは少し残念だと感じた。中学校でも（むしろ中学校の方が）いじめで居場所がない子や高校入試を受けたいがお金がないため塾に行けない子がいるため、中学校の方にも力を入れて欲しいと思う。
- ・県の方でやると決めて委託した方がいいのでは？と思いました。各市町の中で差がなくなるようになると思ったためです。
- ・できるだけ多くの学校で取り入れられるよう、県としては進めていただきたい。ただし、内容については画一的になるような指導はしないほうが良い。
- ・市町村によっての違いが大きい事業内容だなと感じました。県としての関わり方を今一度見直した方がいいのでは・・・。地域の単位を“静岡県”全体にした考え方ができな

いかと思います。(活動の情報公開、問題点の共有等)

- 人口流出が多い静岡県なので、未来の人材を育てる意味でも、全市町村で行われるべき事業ではないかと感じました。
- 森町や松崎町のように、教室数やコーディネーターが少なくても開催日数が多いところや、逆に富士市のように人は多いが日数が少ないところがあり、やり方を伝えれば、まだ底上げできると感じた。
- 自治体の姿勢の軸をしっかりと示す上で、補助の対象をしっかりと決め、補助額を設定することが大事だと思う。
- 事業が成長過程であること、取り入れていない市町村も何もしていないわけではないことは十分理解できるのですが、やはり義務教育の中で格差が進行形で出てきてしまうのは、マズいと思うのですが・・・。
- 市町の実施について県は強力的に後押しする態度をとってほしい。地域コーディネーターの負担は大きいし、適任者を選ぶのは大変だと思う。
- 子供たちを地域で育てることで、地域の力も向上(共助)するので、県でできることはあくまでも(補助金を)事業費を出し、市町村、学校に運営をお任せするしかないとも考えます。各市町村により財力に差があるので、子供の教育に地域差が出ることは望ましくないので、県がそのサポートができるようにしたいと考えます。
- 学校支援地域本部：市町により展開に温度差があるように思われ、全市町で実施すべきであり、県としてリーダーシップを発揮して、静岡県全体でボリュームアップできる施策を実施してほしい。「有徳の人」づくりを達成するためにも。

ウ 事業内容

- これは「子育て」ではなく、子供を通して逆に「地域(社会)」が育てられるという事だと思う。とても有意義!
- 地域コーディネーターに負担がかかりすぎていないか? しかも無償だというし・・・全てはこの人達にかかっていると思う。実際に人材を探して動いてもらうのは、とても大変なことだから。
- 地域の方の熱意だけでは、混乱する場面も出てくると思う。話し合い・・・最終的には、学校が責任を持つ＝リーダーシップを取る事が大事。
- 今までも、学校と地域の連携があったと思うが、地域差・学校差が大きかったと思う。行政が関わる(踏み込む)ことで、より広く深くつながりを作ることができると思う。
- 実施回数が少ない町はイベント型。実施回数が多い町は、肩の力が抜けている＝「自由遊び」。大事なものは、持続性だと思います。
- 地域の方に手伝ってもらおうということはとても良いことだと思うけど、あんまり頼りすぎると子供たちが自分自身で何かをするということが減ってしまうのではないかと思った。学習の手伝い等書いてありましたが、それは子供同士でやるからこそ勉強になるのであって、そこに地域の方が加わるのは違うかなと思う。分らないところは、先生や親に聞くこともできるし、あまり地域の人に頼りすぎると、生徒と教師のコミュニケーションが減ってしまうのではないかと感じた。
- 学童保育は、放課後、親などが迎えに来れない時などに、見てくれる人などがいるのは親にとっても子供にとっても助かると思うので、今後どんどん推進して欲しい。

- 学校側とボランティアの連携が、横のつながりを広げるためにも重要であると感じた。
- 学校支援地域本部の認知度が低く、震災時のデータは設置したことにより素晴らしい成果が得られているが、認知が低いのがもったいないと思った。
- 施策の方向性として、「地域の教育力の向上を図る」とありましたが、「教育力」についてよりかみ砕いて明確に表すべきであると思った。
- 地域と学校側の考え方の一致を図る必要性を感じた。
- 地域コーディネーターの活躍が増えてきて良いと思う。
- ボランティアの活躍は、非常に良いと思う。
- 放課後子ども教室の活動内容が子供に魅力ある内容にしたら良いと思う。
- 事業内容のサポートに偏りがあるように思いました。
- お互いの方向性を確認することも大切。何を目標にするかとか目指す所など。
- コーディネーターさんが増えて、地域と学校のつながりが増えることは良いことだと思う。
- 地域と子供達のつながりを深くしたいのなら、教室もコーディネーターも多い方が良い。
- 予算を出すという面では、一定の効果はあると思う。だけど県も市も学校もタッグを組んで目標をもてば大きな効果になると思う。
- 放課後子ども教室は、ほとんどの地域で開催日数が1ヵ月前後で少ないので、単に「自由遊び」というよりは、子供達に色々な経験をさせてあげる方が良いと思った。逆に自由遊びはこういった場を設けなくてもできることであり、それなら放課後に子供たちが運動場で勝手に遊んだ方がよっぽど有意義なのではないかと思う。また、学校の運動場なら安全性も確保できるだろう。
- 少子化の時代です。良い事業だと思いますので、県主体で進めてください。
- 各市町の要望を良く聞く時間を持ったらどうか。
- 学童クラブとの差別化が必要。
- 自治体によって実施する内容や日数が大きく異なっている。コーディネーター間の連携を密にする必要があるのではないか。
- コーディネーターは無償のボランティアではなく雇うべきではないか。ある程度責任を持たせる必要があると考える。
- 県教委が指導し実行は市町で良いのでは？
- 本当により良い教育をさせたいなら謝礼でいいので、多くの方に協力してもらえらる様にするべき。
- 学校支援地域本部と放課後子ども教育の事業の区別が分かりにくい。同じような事業なので、区別する必要があるか？
- P50 ウ. 放課後子ども教室等安全管理研修が1回だと少ないのでは？（他に市町でやっているのか？）
- 大学生等若い世代がコーディネーターや子ども教室をやれば今までにない教育ができるのではないか。
- 県単位でできることは限られてくるので、市町同士で話し合う場を作って意見交換できるとよい。
- 県が直接的に関わる事業ではないと感じる。（地方分権の進んでいない象徴か）
- 市町レベルの自治体レベルで維持・運営されれば良いもので、上級庁の県は間接的に関われば良いと思います。

- ・各市町の教育委員会のレベルアップを目指し、市民レベルで展開は不要と思う。
- ・この事業費を当県/静岡県に足らざる施設の文化・教育施設に使ってもらいたい。(例：県立博物館の設立)
- ・放課後子ども教室は、施策として居場所を提供するのであれば、県として一定の開催日数を確保すべきだと思う。そのためのボランティアの確保、活動内容のガイドラインを作るなどすべきだと思う。
- ・居場所と体験両方大切にしたいと考えたいのも分かるが、その市町毎に必要な割合にするべきだと思います。
- ・学校支援地域本部は、ボランティアを学校の授業に入れることは、学校の先生の負担が減らせる一方、問題も多い印象を受けた。その問題については、県が関与しにくそうで、県の目標立場を明確化しないと、有効な補助の施策にならないのではないかと思った。
- ・県・コーディネーター・学校・地域住民と様々な要因があり、複雑なので、県としては、多くを追い求めず、1回で最善の状態にならなくとも的を絞って施策として打ち出した方が良いと思った。
- ・放課後子ども教室も学校支援地域本部も、どちらもやるべきことだと思うが、もう少し練る必要があると感じた。(但し、内容に関して一定の自由さを残す必要もあると思う)
- ・学校教員の仕事や負担が増えていることが話題になる中で、それらの負担を地域ボランティアの方々が負い、また子どもの居場所作りや自立、地域交流も盛んになるという効果があるのは良いことだと思う。
- ・ボランティア、コーディネーターと学校の両者が密接に連絡を取り合うことがこの事業を成功させる上で重要だと考えるので、これからも連携を大切にしていって欲しいと思う。
- ・「地域の教育力の向上」→「地域の子どもは地域で育てる」→どんな子どもに育てるか→何を社会と共有し、連携するならば、地域の人が学校へ入ってくれるだけでなく、子どもが積極的に地域に入っていく方策を推進する必要があると思う。(例：地域の行事には、児童・生徒は必ず参加させる。そのため、学校行事は入れない(部活動)。また、地域の行事に補助金を使い、報告させる。)
- ・専門委員の方が提案された「ボランティアをやってくださる方は、地域通貨による有償にすべき」は賛成です。無償によるボランティアをしてくれる方々はとても素晴らしいとは思いますが、これからの世の中、そんなに生活に余裕のあるお年寄りはいないと思いますよ。
- ・市町との連携が難しいと思った。県の方で市町と連携させるために、意識を高める施策が必要だと思います。
- ・ボランティアを有償にするべきだと思います。有償にした方が責任も生まれてくると思うので、一部有償にするなど良い方法があればいいと思いました。
- ・地域にあまりにも頼りすぎていないか。子供の親の考え方が分からないのに、地域の方とのコミュニケーションがとれているのか。
- ・放課後子ども教室を利用することで、利用者の家族が孤族化することを防ぐことができるし、相談する環境があるので、どんどん周知して利用するべきだと感じた。
- ・ボランティアという個人の善意だけでは、継続的・安定的なサービス提供には限界があるように感じた。
- ・コーディネーターと学校側の打ち合わせに関して、コーディネーター・学校双方にとっ

て負担が偏らないようにするべき。

- ・平日働いている方は、この事業に関われないのでは？
- ・どこにお金関わっているのかが明確でない。
- ・補助を受けているところと受けていないところを含めて、他での成功事例を参考にしてうまく効果が出ているところを広めていけるような横のつながりをもてるような取組もあったらいいなと思いました。
- ・県と市町とのあるべき姿を明白にして費用は市町に委託すべきと思われる。
- ・県として成功例を把握して各市町がチョイスすることが必要と思う。各自治体で環境が違うと思います。
- ・地域コーディネーターの人的学習、人数を増やせるようにするために、有償もありと思われる。
- ・「学校支援地域本部」も「地域コーディネーター」も知らなかった。予算をつけているのであれば、広く知らせておく必要はあるのでは？（より人材を見つけられる）
- ・放課後子ども教室の必要性が薄いような気がする（塾や習い事にいく子が多いと思うが）。ごく一部の子ども向けのものでは？と思えたりもする。居場所が常に必要な子ども向けではないですね。
- ・無償でのことは限界はあると思う。
- ・地域のボランティアが学校で活動することは、学校が開かれたものになることでも評価できる。ボランティアの目が入ることにより、学校が閉鎖的なものでなくなると良いと思う。
- ・コーディネーターの質が大切だと思う。ダイバーシティの視点を持つての活動に心がけていただきたい。
- ・日本の小中学校は、もともと非常に閉鎖的。地域目や声が活かされるようにすべき。もっと予算を増やしても良いのではないか。
- ・質の良いボランティアを確保できないと教育効果は期待できない。同じ市の中でも学区によって差が出るだろう。
- ・運営委員会の設置がないと国の補助金を受けられないというこの制度そのものがおかしい。
- ・放課後子ども教室より、放課後行き場のない児童が行ける児童クラブをもっと充実させる方が better だと思う。
- ・教職員の多忙化とか、職員の年齢の偏りなど、根本的な問題を解決すべきで地域の人と子どもを結びつけるのは、学校中心でやらなくてよい。
- ・「放課後子ども教室」と放課後子どもが家に帰る代わりに立ち寄るいわゆる“学童クラブ”との違いがよく分からなかった（県（市）のかかわり方、学校との関係が見えない）。税金を使う施策としては、平等であってほしい。
- ・コーディネーターの方、大変なお仕事だと思いますが、良い事業ですね。もっとアピールして利用してもらえようと思ったら・・・。
- ・学校の負担を少しでも減らして、十分目が届くようにしてもらえると良いと思う。
- ・放課後子ども教室について。市町によっていろいろある・・・と思いました。自由遊びの日をいれて、開催日を増やしたり、そこに行けば大人目がある場がたくさんあるといいと思います。もちろんいろんな体験ができるのもいいと思います。
- ・地域のつながりは大切かもしれませんが、子ども第一で考えてはいけませんか？

- ・地域が子どもを見守るでいいのでは？いろいろな手助けはコーディネーターが調整してもらえれば。いろいろな場面を通してつながりができればと思います。
- ・大人、子どもの交流の場ができて良いと思う。安心して子供を育てられれば、少子化も改善されるかもしれない。
- ・地域の魅力のわかる人材を発掘することが一番の課題。
- ・シニアスクールがとても興味深いです。さらに子どもたちと交流することで、地域の活性化につながると思います（「知り合う」という単純なことが学校でできる）。
- ・使っていない市町の理由が知りたい（把握できているのか？）。
- ・自分の子どもが卒業しても続けられる環境がほしい。
- ・小学校の親として、自由な場、安心できる場があることはとても心強いことです。
- ・児童クラブは（浜松市浜北区）NPO がやっていて比較的費用が高く、親の負担も大きいです（会計や役員があり月1で保護者会議があります）。活動内容はとても良いのですが、敷居が高いです。
- ・具体的な数値を示すことで、あいまいな表現をわかりやすく正しく理解してもらえる。
- ・子供の成長で大事なことは、自立していること／自主性を育てることなので、難しいですが、ある程度大人は子どもを見守るよう改善するべき。
- ・学校支援地域本部が設置されている避難所とそうでない避難所とで自治組織が立ち上がる過程に大きな差がデータとして出てきているので、地域と学校のつながりが強くなっているのが分かった。この強くなった地域と学校のつながりを利用して、地域の教育力の向上を図るといことはとてもよいことだと思う。
- ・子どもの主体性も大事だと思うので、やりすぎもどうかとも同時に思った。主体性を育ててこなかった子どもというのは将来社会に出るときに大きな壁にぶつかってしまうと思うので、子どもたちの主体性を育む教育も行ってほしいと思った。
- ・音楽や家庭科の授業に専門的なボランティアを参加させるようにするという話があったが、部活やクラブ活動へ徹底して反映させてほしいと思う。スポーツや音楽は指導者次第で実力が大きく変わるものであり、若いうちから実力をつけることで将来への可能性が広がる大切なものであるため、どの地域の子どもにも平等に専門的な指導を受けられる機会があるべきだと考える。
- ・放課後子ども教室ができた背景には、公園などの遊具がなくなったりといった子どもの遊び場がなくなっていること（もともと居場所を奪ったのは大人）があると思うが、そう考えると基本自由遊びだけで十分なのではと思う。具体的に伝統文化やスポーツをやりたいのであれば、習い事をすればよいだけではないかと思う。地域との交流をさせたいのであれば、そのような趣旨のイベントを開催すればよいと思う。
- ・いじめなどで居場所がない子どもに関する話が出ていたが、なぜ昔からそのような子どもがいたはずなのに、今更居場所を作ろうとするのか？時代？学校に居場所がないなら習い事などやり方はあると思う（行政の問題にする必要があるのか）。
- ・学校支援地域本部については、民間の力（一般企業には退職者の中に優れた経験）。科学力、語学力（多国語）その他将来子どもたちに役立つ実績を持った人材が数多くある—その力を役立てないか。法人の力の活用に力を注ぐ。
- ・放課後児童子ども教室については、ボランティアの力にばかり頼るのではなく、有償にして予算をつけてあげるのも可。
- ・内容ばかりにこだわるのではなく、自由に遊ばせるのも大事ではないか。

- ・私が子どもを育てた時期は学校支援という制度は全くなく、小学校の先生は何でも屋という感じで、授業参観に行っても先生は大変だという印象しかなかった気がします。現役を引退した方が先生を助けてくれるような制度はとても良いと思います。
- ・共働き家庭が多い中、塾やお稽古事に行っていない子どもたちのやることはゲームだと思うので、それ以外の遊びを一緒にしてくれる場は良いと思う。
- ・児童数、学校数、公立、私立について差があるか。
- ・子供達同士の活動も並行しなくてよいのか。
- ・市・町の教育委員会との連携が見えてこない。教育委員会なのか校長なのか、必要なことなので、首長の研修などで指標を出してはどうか（年何回開催）。
- ・小学生を主体的に動けるようにすべき。受動的でないよう、良くも悪くもある程度自由な活動（遊び）をさせた方がよい。
- ・企業の体験学習をさせた方がよいと思う。
- ・地域全部で事業を行うのではなく、可能な限りだけ進めればよい。
- ・放課後子ども教室は、クラブ活動と同じではないか。
- ・収益が狙いでやっているのではないか。
- ・県と各市町村の連携をもっとしっかりした方がよい（県として施策として行うのであれば、もっと各市町村がどのように思って、どのようなことを望んでいるのかをしっかりと調査した方がよいと思った）
- ・保護者はどのように感じているのか？→意見等を聞いた方がよいと思った。
- ・現状把握をもっとしっかりして、活動をした方がよいと思った。
- ・常に10年先、20年先を見据えて大きな目で考えてほしい。
- ・子育て支援活動のボランティアのひとりとして活動しています。地域の人の中には、何か役に立つ活動に参加したいと思っている人は大勢います。コーディネーターの育成に力を入れ、大いに活用したらよいと思います。
- ・放課後児童クラブも県の管轄だとするならば、子ども教室との関わりが分かりにくい。子ども総合プランに関しても全くイメージがわからない。県の予算を使う意義を感じない。
- ・放課後の子どもたちの居場所を作る。目的は子どもたちの居場所、さみしくならぬところ。これを作るなら、まず子どもたちの現状を知るべき。
- ・放課後の時間を使って、子どもと高齢者の交流の場を作り、子どもが地域のことを学ぶとともに、高齢者が生きがいをもつことができればよい。
- ・学校と放課後教室のつながりをしっかりする。
- ・ボランティアの資質、人格（失礼ながら子供に対する態度とかの問題もありますので）等の管理指導も大切だと思います。コーディネーターの指導力向上に向けて、各市町村のコーディネーターに対する教育を県主導でやってもよいと思う。意見交換の場にもなると思います。
- ・子ども教室の内容について、わざわざイベント的なものでなくてもよいことを市町村に県からアドバイスしてもよいかなど。
- ・子供会との連携も考えては？
- ・この事業の狙いは、地域・家庭に対して、教育に対する相応の責任をもってもらうという考え方に基づくものと考えます。今まで教育は全て学校に任せるという姿勢が強くなった結果、複雑な社会問題が発生してきたという側面もあると思います。ここで、地域コーディネーター、指導者 etc を育成する事業内容はいいと思いますが、同時に何かク

- レーム etc トラブルが発生した時の対応、その責任に対して個人に集中しないよう、クレーン処理体制について整備されることも課題として追加検討されることを提案します。
- ・子供の教育は、「一人で悩み一人で考え乗り越えていく、智慧をつけていくこと」がとても重要と思う。大人はなるべく見守ること。そして子どものそれぞれの能力の個性を見極めてそれをほめること。その姿勢を守ってほしいと思う。その考え方をベースに、それぞれの役割を決めていくといいと思う。
 - ・預かるだけじゃなくて、子供たちが何かを目当てで来る（参加）ということが良いかと思う。
 - ・各地域で有償なのかそうでないのかは決めても良いかと思えます。
 - ・なぜこの施策が出てきたのかわからない（目的を見ても）。
 - ・現状把握（問題点）を明確にしてほしい。
 - ・県の教育委員会及び社会教育課における他の事業との学校支援地域本部・放課後子ども教室の事業の関連付けおよび役割分担はどうなのかを知りたい。
 - ・とてもいいお金の使い方だと思うので、もう少し自信をもってください。
 - ・郷土を愛する活動であるかが見えてこない。
 - ・子供教育は集団指導と思っていましたが、個別対応も必要となってきた。
 - ・調書P43の補助事業の実施市町別一覧について。静岡市で実施している学校が100%なのに、コーディネーターが12人しかいない。これは静岡市のコーディネーターが超優秀なのか、各学校の先生やPTAが頑張っているからなのか。この事業では、コーディネーターが一番の核となると思うのだが、責任や業務内容は重いにもかかわらず無償であり、長続きするのか疑問である。
 - ・P46の実施状況について、イベント型・日常型なのかというところであるが、張り切ってやるのは、長続きしないと思う。各市町で頑張っていて考えてやっているところだと思うので、県は全体を見渡して調整していけばよいと思う。もう少し踏み込んだ調整を希望する。
 - ・教育委員会が地域のつながりを強調するのなら、家の近くに公園ができたとき、その看板にボール遊び禁止と書いてあった。高齢者が植えた花をあらされてはたまらないとの理由だった。他の部署との協力も必要ではないか。
 - ・P46の放課後子ども教室数が198あって、コーディネーターの162名、開催日数26回であるが、内容に魅力がない。茶道、いけばな教室等、子どもにとって魅力を感じない内容になっている。小学生が、授業が終わった後に集まっていきたいくなるようなカルチャースクールの内容にすべきである。自分のような大人が行きたくなくなるようなカルチャースクールの内容となってしまうので、子どものやることにレベルを下げるべき。県として市町村の学校関係の方に教育指導をすることも重要ではないか。
 - ・昔は大人ではなく、先輩から教育を受けていた。ボランティアが何でもかんでも口出し、子どもは様々な制約を受けている。何でもかんでも教えるのは良くない。
 - ・実施市町は35市町のうちの21市町であり、参加対象でない14の市町は何か理由があるのか。
 - ・小学生の頃、自分は児童クラブに属していたが、こういうのは大事だと思う。指導してくれる人とか、他のクラスの子どもの交流とか、広がっていく。今後も、こういった活動に力を入れてもらえると、子どもはありがたいと思う。
 - ・僕も子どもの頃、放課後子ども教室を利用したことがあって、そこで勉強を見てもら

ことと、ドッジボールやトランプを皆でやったことを覚えている。他の学校からも子どもが集まっていた。その時に、他校の子どもとも交流できて、その後も交流が続いた。他校の子供同士の交流も大事なことだと思う。僕自身、今でもいい思い出として残っている。今後も続けてほしい。同じように思っている子どももいると思う。

(2)その他

- ・子供のための教室で似たような教室で紛らわしい。
- ・子供の教育は、教師だけではなく、人生の志となる。
- ・地域によっても取り入れ方に差があることに驚きました。
- ・自分には子供がまだいないが、ボランティアで絵本の読み聞かせに行っていたけれど、子供達がスタッフを覚えてくれて顔を見ると声を掛けてくれてこうして子供と地域がつながるんだなと感じた。
- ・地域と子供お互いに知り合うこと知り合いになることは、コミュニケーションが取りやすくなることだから、震災など地域で力を合わせないといけない時には必要な事だと思う。
- ・事業予算を組むという面で見るとふわふわしていると感じる。
- ・安全のための場所、孤独をなくすための場所作り、どれが主体？どれも主体？コミュニケーションが取れない人（子供・大人とも）はいないほうが良い。
- ・今の子供は、手を掛けすぎていると思うが、周りの環境が悪くなっているため、仕方ない部分がある。
- ・県としての意見等が見えない事業ということを感じた。
- ・静岡県が恵まれていると思う。
- ・H27、H28 と決算が上がっているのに、なぜH29 は減額なのか？
- ・住居地が浜松市なので、本事業対象外なので、回答しにくい。
- ・「未来に夢の持てる教育を」。
- ・事業番号2については、今回初めて聞く言葉で、専門委員の言葉言葉にうなづくのみで申し訳ありません。
- ・放課後子ども教室は、遊ぶ場の提供。雨の日に友達と遊べたらいいな。
- ・地域通貨・・・？が何か分からなかった。
- ・子ども教室の回数が少ないのは、ボランティアをやる側にとっては大変。居場所作りからして大変・・・？
- ・居場所を大人に作ってもらうかについて～ボランティアに参加したことがあるが、子どもたちは、皆すぐに宿題をやったり、遊んだりして、大人を意識せず自由に行動していたので、ボランティアが何かしてあげようというよりは、子どもの意思を尊重して動いていた。また、積極的に挨拶してくれて、学校側の教育がしっかりされていると感じた。
- ・「教育のあり方」に対する問題は、日本という国の高度な問題であると思うので、この事業レビューで扱うことに対して疑問を持ちました。
- ・社会教育課職員の企画力、事業推進力（事業）を観察するものでないように感ずる。
- ・子供たちの為に、どの方法が良いのか私たち大人が考えなければいけない課題であるかもしれませんね。
- ・色々の意見、参考になりました。

- ・浜松にはないので、あまりピンときていませんが、とても良いと思います。
- ・地域で安心できる環境があることがとても良いと思います。一員としてそういう環境を目指したいと思いました。
- ・問題の本質を見失わない、核心をついた質問が投げかけられる議論が展開され、非常に良かったです。
- ・大人が手を出しすぎ（ex. 部活動に対する親の関わり）。子どもの自主性が損なわれることがある。
- ・これは子どもを育てる事業？大人のボランティアマインドを高める事業？
- ・一定の効果があると思いますが、何かピンとがずれている感じがします。
- ・このような活動があることを初めて知りました。
- ・私たち夫婦は子どもがいないので、学校との接点が全くありません。閉鎖的だと思っていただけ、学校って意外とオープンなのですね。
- ・この活動の効果は正直よくわかりません。
- ・各市町への指標はどのように示されているのか。
- ・森町をほめていただきありがとうございます。
- ・郷土を愛すについて伝えているボランティアは、近所の怖いおじさんと近所のうるさいおばちゃんです（大事なことだと思います）。
- ・御前崎市の資料、見出しだけでもほしかった。
- ・予算のある市町、材料費も結構かかるのでは。
- ・学校の役割が変わっている。変えていくことは必要だと思う。
- ・教員の負担が増えたのか（授業と時間外）。
- ・現在の子どもは学力だけ進み、人間として全然育っていない。すぐなにか言えば切れてしまい、何も言えない。今すぐこの性格変えていかないと世の中が大変になってしまい、安心して生きていくことができない。なんでも若い者はだめではなく、国全体で考えていかないと、日本なくなってしまう。
- ・一般の人を県全体に集合させるならば、もう少し、身近な内容にし、子どものためになる事をしっかりと考え、課題もう少し下げているいろいろやってほしい。子供も段々と少なくなり、年をとった人は安心して生きていくことができない。
- ・ボランティア派遣は、教育と関係なく、地域を学ぶという事というのは、苦勞していることだと思います。
- ・支援地域本部の地震時混乱がなかったというのは信じられない。
- ・もっと素直な心で動いてほしい。
- ・ボランティアというものを形に表して思い出にすればよいもので、学校の成績などに反映させたりするのは良くない。
- ・週2日3日、やっていることはあまり進められない。少ない月に2、3日の方がボランティアとして当然になっていくと思う。
- ・子供達の性格が年々、柔らかく優しい感じがするのが目立つ。不良から良好へと変わりつつある。
- ・今までも地域と学校との連携があるとは気にしていたつもりでした。地域コーディネーターさんがいるとは知らなかった。自分のところはあんまり聞かないんですが、家庭と学校はあんまりつながりがないように思います。結局のところコーディネーターは部外の方なんだからと思ってあんまり意見の交換や行事があるのかもわからなかったです。た

- ぶん回数が少ないこともあるようで意欲だったりその気がない人ばかりだと思います。
- ・各自治体、学校、地域の状況があつてから行事のこと（事業内容）でも良いかと思いません。教委や県の考えはありだと思うけど、そこまで持ち込んでいくとまだ地域の考え、学校の状況がはっきりしていないようなので、わからないと思います。人数（コーディネーター）の確保だったり、参加してくれる子供たち、地域の人でも参加の人がいなければどうなるのか・・・。
 - ・地域まかせでもあるような気がしました。内容もわかりづらいことがあるので、ちょっと理解に時間がかかると思います。
 - ・教員からボランティアコーディネーターの方との打ち合わせっていうのがどうなの？ただ働きっていうイメージになっているようなので、はっきり言えないのはちょっとどうかと思う。
 - ・子供教室については知らなかったです。放課後クラブよりも内容がすごく細かいし、コーディネーターさんも多いし。
 - ・大人がいるだけでも保護者やボランティアの内容が変わることもあるんじゃないかと思う（それぞれの事情）。
 - ・教委がやっていることと、県が直接やっていること、もう少しわかりやすくした方がいいと思う。
 - ・まだ内容がわかりにくく、誰のためのつながりをつくるのか。はっきりしてくれると良いかと思えます。
 - ・大人の子どもへのあてがいぶちに感じられる。
 - ・ハードがない、ソフトのみの事業だと、なんとなく話がなかだるみしているものも感じた。
 - ・AMの部もそうだが、袋井市、御前崎市においての資料がないのは少し残念。ただ声を上げた人も言い方が良くないと思う。
 - ・子ども目線で見ると、小学生の頃、似たような仕組みはあったと記憶している。地域とのつながりとして、だれにとっての地域のつながりなのかという面が重要。説明の中で東日本大震災の際に、学校支援地域本部が設置されている学校では、避難所で自治組織が立ち上がるのはスムーズだったとの資料があったが、それは、子どもと地域の関係性ではなく、学校と「地域の大人」の関係性がよかったのではないかと感じる。
 - ・今回レビューした事業は、私の住む市では実施していないようであり、残念である。どうして私の市では実施していないのか、理由を教えてください。
 - ・国の教育のあり方があり、市町に主な役割がある。その中で、県が補助金を出すということで、その裁量が限られていると感じる。県の説明者は回答に窮している様子が伺えた。
 - ・事業レビューの中で、この事業を扱うのに、限界があると感じた。
 - ・子ども食堂のボランティアに参加したことがある。その利用によって家事が簡略化され、レシピを教えあつたり、食卓を囲んで談笑できるようになったりということで、家族が周囲に頼ることができるという点で、家族にメリットが大きいと感じた。そして、働き方が多様化する中で、こうした放課後子ども教室はニーズが増えていくと感じている。その中で、担い手を増やし、コーディネーター力を向上するために、ボランティアが大事だと思うが、そのための募集や働きかけはどのように行っているのか。具体例を教えてください。